

ベネズエラ情勢（内政・外交：平成27年12月）

1 内政

（1）国会議員選挙

ア 2日、欧州議会は、治安上の観点から、3日～7日を予定していた欧州議員団の派遣取りやめを発表。

イ 2日、全国選挙評議会（CNE）が招待したサパテロ・スペイン前首相、トリホス・パナマ元大統領、UNASUR選挙立会団、その他外国からの専門家等が、CNE主催の国際選挙立会プログラム開会式に参加した。ルセナCNE委員長は、選挙立会団メンバーがベネズエラの自決権を尊重し、主権侵害をしないように釘を刺した。

ウ 3日、ガルシア・マルゲージョ・スペイン外務・協力省大臣は、今次選挙が平和裡に行われ、公正で透明性のある選挙が保障され、（ベネズエラ政府によって）投票結果が尊重されることを願うと発言した。右に対し、ロドリゲス外相は、野党が選挙結果の受け入れに否定的であることをスペイン外相は知らないようであるとコメントし、如何なる内政干渉も受け入れない意向を表明した。

エ 3日、国会議員選挙キャンペーンの最終日、マドゥーロ大統領は、野党が国民の関心事項に応えておらず、予算案、年金、保健分野への投資、公共事業等に反対しているとしてネガティブキャンペーンを展開し、「必要であれば戦うために支持者と共に街に繰り出す用意がある。」と発言した。

オ 3日、ロシア政府は、ベネズエラ国会議員選挙を前に、海外メディア等による選挙プロセスへの介入が見受けられ、右が、ラ米全体の政情不安定化に繋がりにかねないとする見解を表明した。

カ 5日、マドゥーロ大統領は、MUDに招待され、国会議員選挙に立ち合うべく当国を訪問した6名の元中南米大統領等や、CNEの招待を受けた国際選挙立会人約150名の受け入れ式典を開催し、元大統領等に対し、野党が選挙結果を受け入れるように仲介を求めた。

キ 5日、マドゥーロ大統領は、サパテロ前スペイン首相及びトリホス元パナマ大統領と短時間会談した。

ク 6日、全国14,515カ所の投票所において国会議員選挙が実施され、一部の投票所において、選挙立会人の不在や電子投票機の故障による投票開始時刻の遅れ等が見られたが、大きな混乱もなく、投票は、夜7時以降順次終了。なお、選挙プロセス基本法では、投票時間は、投票待ちの列が無い限り夜6時までと規定されているため、CNEの決定により投票時間が1時間延長されたことに関し、野党から違法であると非難された。

ケ 7日0時30分頃、ルセナCNE委員長は、第一回開票結果について、全167議席中145議席が確定、与党GPP46議席、MUD99議席と発表した。8日、CNEが公表した最終選挙結果によれば、与党GPPが55議席を、野党連合MUDが112議席（国会議席の3分の2）を獲得した。9日付当地エル・ユニベルサル紙によれば、MUD得票数は7,707,422票（56.2%）、PSUVは5,599,025票（40.8%）を獲得した。他方、10日付当地ウルティマス・ノティシアス紙によれば、MUD得票数は7,482,252票（54.4%）、PSUV得票数は5,616,639票（41.6%）、無効票683,405票（5.09%）であった。なお、MUD112議席のうち、93名の議員が大政党からの当選者で、内訳は、正義第一党33議席、民主

行動党25議席、新時代党21議席、大衆意志党14議席であった。また、約1,440万人の有権者が投票（投票率74.3%）した。

コ 7日0時36分、マドゥーロ大統領は、会見を開き、野党の勝利を認め、憲法と民主主義の勝利である、今次投票結果は、経済戦争の勝利であり、資本主義陣営が繰り出した集団の信頼弱体化戦略によるものであるとの見解を表明した。

サ 7日、フェルナンデスUNASUR選挙立会団長は、今次選挙プロセスは極めて民主的に実施されたと評価した。同日、UNASUR選挙立会団は、国会議員選挙にかかる暫定報告書をルセナCNE委員長に提出した。今次報告書には、キロガ元ボリビア大統領等が選挙基本法を侵害したため選挙立会人としての信任を剥奪された旨も記載された。

（2）国会議員選挙結果に関する国際社会の反応

ア 7日、ケリー米 국무長官、モグリーニEU外務・安全保障政策上級代表、サントス・コロンビア大統領、フェルナンデスUNASUR選挙立会団長、アルマグロOAS事務総長等が相次いで民主的・平和的選挙の実施に祝意を表し、ベネズエラ政府及び野党勢力に対して、民主主義進展のため協働・建設的対話の開始を呼びかけた。

イ 7日、ラウル・カストロ・キューバ国家評議会議長は、ベネズエラで6日に実施された国会議員選挙の結果を受け、マドゥーロ大統領への連帯の念を示すメッセージを発出した。

ウ 7日、オルテガ大統領は、マドゥーロ大統領宛のメッセージにおいて、「これは、新たな戦いに備え、今後の数々の勝利に向けて前進を始める日である。PSUVは、チャベス元大統領とベネズエラ国民とともにあり、将来が困難に見えようとも迷わずに、戦い抜き、克服し、愛国心及び社会主義とともに前進するだろう。」と述べた。

エ 7日、パナマ外務省は、選挙結果にかかる祝意を表明するプレスリリースを発出し、ベネズエラ国民に対し、選挙における民主主義の勝利への祝意を表明した。

オ 8日、マクリ次期アルゼンチン大統領（当時）は、選挙が平穏無事に行われ、マドゥーロ大統領が敗北を認めたことを受けて、民主的な一日であったとし、ベネズエラ国民、大きく議席数を伸ばした野党連合MUD等に対して祝福するコメントを、ツイッター上に投稿した。また、ロペス大衆意志党党首等の政治囚を、ベネズエラ現政権が速やかに釈放するように期待する旨発言した。

カ 9日付ロシア外務省プレスリリースは、国民の意思表明が平和裏にかつ平穏に憲法に則ってなされたことを評価し、現体制による選挙システムの確実性及び民主主義的特質が改めて確認されたと表明した。また、ベネズエラの経済・社会問題解決には政治対話や協働の必要があることや全権力の連携が不可欠であると強調するとともに、外部からの内政干渉を牽制した。

（3）国会議員選挙後の情勢

ア 8日、マドゥーロ大統領は、閣僚交替を念頭に、全閣僚に進退を預けるように指示した。

イ 8日、マドゥーロ大統領及びカベージョ国会議長は、国家電気通信委員会（CONATEL）との協議の結果として、国会チャンネル（ANTV）のコンセッションについては、同局職員の手に乗ねるとの合意に至った旨発表し、10日、国会において、与党票によりANTVのコンセッションの決定権が同局職員に付与されることが決定した。

ウ 10日、第3回PSUV臨時党大会が開催され、マドゥーロ大統領（PSUV党首）

が、今次選挙結果を受け、ボリバル革命を今後とも促進するための民衆との議論の必要性を説いた。

エ 15日、マドゥーロ大統領は、6日の国会議員選挙における野党の勝利は、状況がもたらした幸運なものであり、経済戦争及び25%の有権者が投票を棄権した結果であるとの見解を示した。

オ 15日、カベージョ国会議長は、コミュン議会の設立を宣言した。16日、アルマグロOAS事務総長は、カベージョ国会議長がコミュン議会設立を宣言したことを受け、憲法厳守、対話重視を要請した。

カ 15日、通常国会が閉会した。

キ 22日、最高裁憲法法廷は、今国会は、2016年1月4日まで権限を有するとの見解を発表した。

ク 23日、特別国会にて、辞表提出により任期満了前に空席となる最高裁判事（任期12年）13名等の任命のための審議が行われたが、要件である国会議席の3分の2の賛成票を得ることができず、最高裁基本法に則り、4度目の審議において国会議席の過半数の与党賛成票により最高裁判事13名等が任命された。新国会で過半数を占める野党からは反発の声が上がった。

ケ 29日、マドゥーロ大統領が、大統領授權法適用による雇用の安定を目的とした大統領法令に署名。同法令により、2016年～19年、正当な理由なく労働者の解雇ができなくなる。

コ 30日、最高裁選挙法廷は、アマソナス州選出の新国会議員3名（MUD2名及びPSUV1名）及び南部（アマソナス州、アプーレ州）先住民枠選出議員（MUD1名）の選挙結果に対する国民の異議申し立てを認め、仮保全措置として、同国会議員4名の当選を保留とする旨決議した。

サ 30日、マドゥーロ大統領は、大統領授權法適用による大統領法令である国境基本法、所得税法、金等資源探査活動権の国家留保基本法、大口金融取引課税法、石油化学産業活動展開基本法、法務庁基本法、株式市場法、警察職務規約法、中央銀行基本法改正法等に署名した。

（4）コロンビアとの国境沿いにおける非常事態宣言

ア 17日、タチラ州ボリーバル市、ペドロ・マリア・ウレーニャ市、フニン市、カパチヨ・ヌエボ市、カパチヨ・ビエホ市、ラファエル・ウルダネタ市における非常事態宣言が期限切れとなった。

イ 23日、アマソナス州アトゥーレス市の非常事態宣言が60日間延長された。

ウ 27日、タチラ州ロバテラ市、パンアメリカノ市、ガルシア・デ・エビア市、アジャクチョ市における非常事態宣言が期限切れとなった。

エ 非常事態宣言が有効期限切れとなった都市においても、コロンビアとの国境閉鎖は続いている。

（5）第3回PSUV臨時党大会

10日、第3回PSUV臨時党大会が開催されマドゥーロ党首（大統領）が演説し、ボリバル革命促進、現政権の立て直し、ベネズエラを不安定化させる右派勢力による経済戦争に打ち勝つための生産的経済モデル構築に向けた社会主義思想に基づく経済会議の開催

の重要性を主張した。

(6) 要人人事

16日付官報第40811号大統領令第2148号にて、陸上輸送・公共事業大臣の交替人事が発表され、ホセ・ルイス・ベルナルドに代わって、ルイス・アルフレド・サウセ・ナバロ新大臣が任命された。新大臣は、直近まで同省の計画・設計担当副大臣を務めていた。

2 外交

(1) メルコスール

ア 20日、ロドリゲス外相は、アスンシオンにおいて開催されたメルコスール共同市場理事会（CMC）に出席し、米国連邦準備制度理事会に対抗してBRICsの再形成及び新興を目指すべきであるとの見解を述べた。

イ 21日、ロドリゲス外相は、アスンシオンにおいて開催されたメルコスール首脳会合に、国内事案対処のため欠席したマドゥーロ大統領の代理として出席した。同外相は、マクリ・アルゼンチン大統領による政治囚の解放要請を内政干渉であるとして拒否し、また、国際資本主義的価値から脱却するための協力メカニズム強化の必要性を主張した。

(2) COP21

ア 1日、COP21のためパリを訪問中のルセーフ・ブラジル大統領は、メルコスール民主主義条項の適用は、「傾向」ではなく、「具体的な特定の出来事」を要件とするとの見解を表明し、マクリ次期アルゼンチン大統領（当時）を牽制し、ベネズエラを擁護した。

イ 4日、パリで開催されたCOP21に出席したバレット環境・水資源大臣は、世界温暖化に責任のある国々と温暖化効果によって苦しむ国々とを別けて考える必要性を説き、発展途上国の環境・省エネ技術へのアクセスを保障するように要請した。

(3) スペインとの関係

11日、スペイン政府は、ロペス大衆意志党党首が、政治的・司法上の迫害を受けていることから、同党首の両親に対して、スペイン国籍を付与することを承認する政令を発出した。

(4) コロンビアとの関係

28日、ベネズエラ国家警備軍（GNB）のヘリコプターが、ベネズエラ北西国境間近のコロンビア領内グアヒラ地域に墜落し、搭乗者2名が負傷した。

(5) アルゼンチンとの関係

8日、マドゥーロ大統領は、マクリ・アルゼンチン次期大統領（8日時点）は、「エリート・ブルジョア」であり、「（政権運営に）失敗するだろう」と述べた。10日のマクリ大統領の就任式には、南米諸国のほとんどの大統領が出席したが、マドゥーロ大統領は欠席した。

(6) ガイアナとの関係

１０日、ハーモン・ガイアナ内務大臣は、ベネズエラ国軍所属ヘリコプターが、ベネズエラとの国境に近いエセキボ地帯に着陸したことに関し、座標を間違えたとのベネズエラ当局の言い分は受け入れがたい旨の声明を発出した。

（７）その他

１７日、米国への麻薬密売容疑で逮捕されたシリア・フローレス大統領夫人の甥２名が、米マンハッタン地区連邦裁判に出廷し、無罪を主張した。次回審理は、２０１６年２月２９日を予定している。

（了）